

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)  
**KECA ニュース** =No.59=

**【巻頭言】**

**会員の声を反映した 2017年度事業計画の策定  
 ～来年5月の通常総会を目指して～**

理事長 河野 健三

1. まえがき

理事長に就任して1年半が経過しました。役員任期は2年ですので来年の通常総会では役員改選が行われ、新役員により新しい体制がスタートします。これからは残り半年の2016年度事業計画を推進すると共に2017年度事業計画の策定に着手します。10月22日に会員アンケートの実施についてお知らせしましたがここでは会員アンケートを実施するに当たって当方の考え方と今後の進め方について述べます。KECAには2013年6月に策定された二つの基本方針があります。

- 【基本方針】(1) 環境に配慮する市民と事業者を増やし、地域社会に貢献する。  
 (2) 自ら楽しみながら活動し、生き甲斐の持てる会の実現を図る。

この基本方針の達成にはまだまだ多くの時間を要すると思いますが、これらを目指すための道筋はつけたと考えています。来年の通常総会(5/13の予定)では2017年度事業計画が審議されます。このアンケート結果をできるだけ反映した事業計画としたいと考えておりますのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。

2. 会員の皆様の声をお聞かせ下さい

現在の支部活動、委員会活動の組織は2003年に開始され10数年経過しました。この組織の活動により今のKECAがあります。しかしながら、現在の会員の皆様、市民・事業者の皆様のニーズに呼応されているか検討する時期に来ています。まず会員の皆様の声をお聞きし、(1) 会員へ活動の場を広げること(2) 受益者たる市民、行政、事業者から受け入れられる活動をすることを目指して、どうすればできそうか、どのようにやればよいか、皆様の声をお聞かせ下さい。

KECAの今までの活動を振り返り、今後のKECAの在り方について検討していきましょう。

～目次～

p.1	会員の声を反映した2017年度事業計画の策定～来年5月の通常総会を目指して～	理事長 河野健三
p.2	環境カウンセラー全国連合会 (ECU) 創立15周年記念の集い及びECU第2回理事会 (9月24日) 報告	ECU 理事 河野健三
p.3	【寄稿】2016年度総合研修会の報告	横浜支部 平野雅明
p.4	【委員会活動報告】『環境管理委員会』委員長 大竹順之、『環境教育委員会』委員長 岡本正義、『環境経営委員会』	横浜支部 平野雅明
p.8	【支部活動報告】	
	☆☆西湘支部☆☆ 東海大学(人間環境学科 自然環境課程)の環境カウンセラー講座	西湘支部長 早野木の美
	☆☆横須賀三浦支部☆☆ 小中学生の環境教育・体験学習	高橋弘二
	☆☆泉央支部☆☆ 「昭和電工株式会社 川崎事業所/キンビール横浜工場」見学報告	鈴木竹二
	☆☆横浜支部☆☆ 自立型水素燃料電池システム(横浜港流通センター)見学報告	太田芳雄
	☆☆湘南支部☆☆ ちがさき環境フェア2016報告	西村堅一郎
p.13	【会員投稿】	
	東日本大震災から始まった福島との5回目の交流会	横浜支部 河野健三
	第11回 エコアクション21 全国交流研修大会 in Osakaに参加して	横浜支部 千葉雅子
P.16	新人会員投稿/編集後記	

### 3. 認定NPO法人の要件獲得を目指したこれからの取り組み

KECAは1999年11月にNPO法人の「認証」を取得しておりますので今年で17年を迎えます。5月の理事会では認定NPO法人についての議題も取り上げられました。認定NPO法人になると寄付金の税制上の優遇措置が受けられますが、「その活動がある程度以上社会から必要とされていること」を証明する基準をクリアする必要があります。かなり高いハードルでクリアすることは容易ではありませんが、これを目指すことはKECAのあるべき姿を検討する指針になると考えています。

認定NPO法人の取得要件は大きく分けると、事業の公益性、組織・運営体制、広報活動・情報公開の3つに区分されます。一番の課題は事業の公益性ですが、求められている要件の検討を含め2017年度の事業計画・予算編成を進めて参りますのでご協力の程よろしくお願い致します。

## 環境カウンセラー全国連合会（ECU）創立15周年記念の集い及び ECU第2回理事会（9月24日）報告

ECU 理事 河野 健三

### 1. ECU 創立15周年記念の集い

ECUは9月10日に東京都千代田区のエッサム神田ホールで創立15周年記念の集いを開催しました。KECAからの参加者8名を含め全国から約100名の参加のもと盛大に行われました。

記念講演では実行委員長の古里理事からECU15年の歩みについて講演があり2001年9月の設立総会でKECA現会員の先崎武先輩（相模原支部）がECUの初代理事長に就任されました。この年は環境庁が環境省となり、都では石原知事のもとでディーゼル車排ガス規制条例が実施された年でした。翌年からは現在、KECAの主要事業の一つとなっている環境省人材認定事業の環境教育インストラクター応募資格取得セミナーが開始されております。

2014年に第4代理事長に佐々木進氏が就任され現在に至っております。2つの記念講演に続いてECUの佐々木理事長から「ECUのこれから」（2.の第2回理事会報告をご参照）と題して講演がありました。

続いて行われたECU創立15周年記念顕彰の表彰式では当協議会から先崎先輩が顕彰状、木村前理事長が炭谷賞、加藤（幸）理事、齋藤（雅）理事、玉川達久氏、嶋田和夫氏、古川監事が特別表彰状、河野が特別感謝状を受賞しました。



中央 玉川達久会員



中央 嶋田和夫会員

### 2. ECU 第2回理事会（9月24日）の報告

ECU第2回理事会は大田区のこらぼ大森で開催されましたのでその概要について報告します。

- (1) 化学物質のリスクアセスメントを行う化学物質リスクアセッサー養成事業を2017年度から開催する予定で、まず初級講習会を開催することでテキストを作成中である。
- (2) 第7回環境カウンセラー全国交流会 in 北九州2016が11月19日、20日に北九州市小倉の西日本総合展示場で開催される。（KECAから河野が出席予定）
- (3) 環境カウンセラー協（議）会が無い空白地帯を埋める意味から個人の賛助会員募集を進めるがECU会員の協（議）会がある都道府県では個人賛助会員は募らない。
- (4) 活動単位である委員会の新たな取り組みとしてEMS（環境経営システム）支援委員会のEMS支援専門家認定事業、ESD普及委員会のESD普及指導者認定事業、市町村で温暖化防止計画の策定支援をする環境関連法定計画支援委員会の法定計画支援専門家認定等事業が計画されている。

## 【寄稿】

## 2016年度総合研修会の報告

横浜支部 平野 雅明

2016年9月2日横須賀市リサイクルプラザA i c l e（アイクル）にて総合研修会を開催した。参加人数は19名で13時から16時半にかけ循環型社会の形成に対する意見交換を目的に、プラザ内の施設を見学した後、施設内で講義を受講し、その後ワークショップを行い意見交換結果の発表を行った。

リサイクルプラザは京浜急行の追浜駅からバスで約8分、下車後徒歩5分の海に隣接する外観に特徴（写真参照）がある施設である。竣工は平成13年で横須賀市内の容器包装廃棄物の再資源化を図るリサイクル施設と粗大ごみとして出された家具の修理、再生品の展示及びリサイクル活動の場としてのプラザ施設とからなっている。

リサイクルプラザ内の見学は女性職員の明快な説明を受けながら、見学コースであるプラットホームから貯留ピット、クレーン操作室、受入れ装置からなる受入れ供給設備を見学後、中央制御室、ビン手選別コンベヤ室をめぐり最後はリサイクル展示コーナーに至るルートであった。横須賀市は収集場所が狭く且つ坂道が多いことから、缶・びん・PETボトルを分けずに収集しており、それに対応するために受入れ装置にコンテナを採用し自動倉庫型受入れ供給装置により一時貯留し、処理工程への投入をしている点が特徴である。混合収集によるデメリットとして手選別で多くの作業員が必要となっていることや廃プラスチックの分別が困難なことがあると感じた。

約1時間半の見学の後、施設内の会議室をお借りし『循環型社会に対する最近の動向と課題について』と題した講義を行った。循環型社会の実現に向けた課題と方向性、そして見学した容器包装廃棄物のリサイクル制度の現状と課題について述べ、KECAとして事例紹介（びんリユースのPRと自治会でのPETボトルの3Rセミナー）を含め平野が説明した。

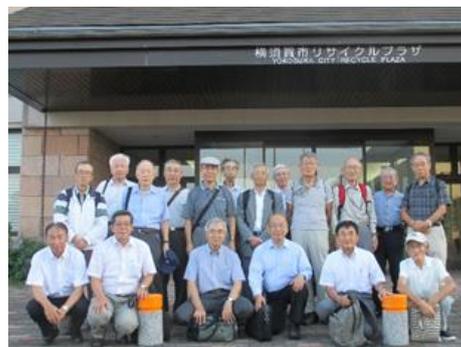
その後3班に分かれワークショップ形式で『リユースの推進』のテーマで2チーム、『消費者の分別意識の向上』で1チームがそれぞれ①現状認識と課題②改善策③KECAとしての対応、について約50分意見交換を行い、チームごとに発表を行った。特にKECAとしての対応策については一般市民に対する情報の提供や普及啓発のための環境教育や出前トークなどの意見が出された。

循環型社会の形成は持続可能な社会の実現の3本柱の一つであるが、3Rの推進については今まで廃棄された後の廃棄物・リサイクル対策に重点が置かれてきており、リサイクルより優先順位の高いリデュースとリユースの推進が今後の課題である。ライフサイクルでの環境負荷低減のために一層の情報発信や自主的な行動につながる普及啓発がKECAとしての役目と改めて認識した。

見学後は有志により追浜駅前の居酒屋で更なる意見交換ができたことを最後にご報告します。



横須賀市リサイクルプラザA i c l e  
（アイクル） 外観



リサイクルプラザ前にて全員集合

**【委員会活動報告】****『環境管理委員会』****環境管理委員の活動状況**

委員長 大竹 順之

2016年度も半ばを過ぎましたが、環境問題に関する話題は尽きることがありません。昨年12月に成立したCOP21・パリ協定は、「2100年までに、すべての国が温室効果ガス排出のゼロを目指す」という画期的なものでした。批准の手続きが発効条件を満たしたため、11月4日にはスピード発効となりました。

政府は、5月13日に「地球温暖化対策計画」を閣議決定し、気候変動の緩和策と適応策に取り組む方向を示しました。その中で、“事業活動における環境への配慮の促進”の項に「ISO14001や中堅・中小企業向けエコアクション21（以下EA21と称す）などPDCAサイクルを備えた環境マネジメントシステムの普及を進め、環境経営の実効性を高めていくとともに、企業における従業員の教育を促すことで、事業活動における更なる環境配慮の促進を図る。」として、EA21の普及と企業の事業活動における環境経営システムによる環境配慮が期待されています。（神奈川県地球温暖化対策計画は10月に発表された。）

EA21認証取得件数は11月15日現在7722件です。全国の中小企業者数（380万余：2014年7月）と比べると0.2%です。中小企業が大半を占めるわが国では、地球温暖化対策だけでなく資源の循環、自然との共生を含めた持続可能な社会実現のために、中小企業が担う役割は大きいと言えます。

環境管理委員会は、KECA設立15年記念誌に活動経過が記述されていますが、地球温暖化防止・環境保全への貢献を目的にその活動をスタートしています。環境省も2004年のEA21の認証制度導入により、普及を促進する目論見であったと思いますが、結果において不満足な状況と考えます。多くの中小企業がEA21に取り組みたいと考える魅力が、環境経営システム、審査の内容、認証により得られるメリットなどを総合して不足していたのではないかと考えます。この点については、環境省やEA21中央事務局も同じ認識に立って、前年度から「EA21ガイドライン改訂検討に関する作業部会」を発足させ、EA21制度全体を見直すと共に、どのように改善して行くかを検討中です。EA21の改訂の方向性としては、認証取得企業を拡大するという方向と、認証取得企業でのマネジメントの質を上げていくという方向の両方を考えることが重要であるとの認識を持っています。中心となる改訂ガイドラインについては、2017年1月に公表され、パブリックコメントへ付される予定です。5月には改訂版ガイドラインが発行される計画です。より取組み易いガイドラインになると、期待されます。

以上、環境管理委員会を取り巻く状況を俯瞰いたしました。ひるがえって、我々の委員会活動の現状はどうでしょうか？10年以上にわたって行ってきた「EA21の普及活動」「企業の認証取得の援助としてのコンサルティング」「企業の事業の成果が上がる経営改善への審査を通じた貢献」などの活動はどのように評価されますか。いずれも目的達成のため委員会内部に運営グループ（顧客開拓、研修、CDソフトなど）を置き、活動して頂いております。今年度は、「普及のためのEA21説明会開催（横須賀・横浜）」や「力量向上研修会の実施」など、努力して頂いております。前者では、まだ具体的な成果につながっていませんが、フォロー活動を継続しているので、今後の成果に期待したいと思っております。

EA21 全国交流研修大会（大阪）では、安井理事長から“新・『EA21 の 8 つのご利益とゴール』”が披露されました。社員のモチベーションを高め、トップの経営力をアップして企業の事業価値を高めるところに EA21 のご利益があると言っています。では、審査人はどうすればよいか？ ご利益があることを知ってもらう活動をするのが一つですが、いままでの普及活動でできていたかどうか？ 認証企業には、ご利益を実感してもらい返上しないようにすることを挙げています。それを審査人が実行できる力量を持っているという前提があります。しかし、自らの審査はどうだったか？ レビューは必要です。自らの審査についても PDCA をまわすことが求められていると思います。

ゴールは高いところにあります。必要なことは、日頃の研鑽を怠らないことに加えて、現実から学ぶ姿勢の大切さではないかと思います。後者の場合、コミュニケーション能力と謙虚であることに鍵があると思いますが、みなさんのお考えはいかがでしょう？

## 『環境教育委員会』

委員会開催日：毎月第 4 月曜日 18:30～ 横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」

委員長 岡本 正義

1. 自然系の体験活動を主体に環境教育インストラクターフォローアップ研修会を 9 月 10 日（土）にフクシアで開催した。

環境教育インストラクター応募資格取得セミナー受講者へのアフターフォローとして、受講者が抱えている課題に対してのアドバイス、あるいは新たなセミナーのヒントを提供することを目的に毎年開催している。

今年は、昨年の研修会アンケートで要望の強い自然系の体験活動の実践事例を 6 名の受講者に高橋弘二委員と田中真次委員が紹介した。高橋委員からは、身近な川の水質、生き物しらべ&川歩きをテーマに小学校で行っている出前授業について、教室及びフィールドワークの事例をパワーポイントを使って説明があった。最後に、パック試験による水質(COD)測定のやり方を参加者全員で体験した。田中委員からは、街の中の自然、新発見！と題してフクシアの近傍にあるアカメガシワやオシロイバナ、クスノキなどの植生を題材にして、植物の特徴、虫との共生についての説明があった。アカメガシワの若芽の赤色の意味、オシロイバナとアリとの共生や、ショウノウの原料として知られるクスノキとある種のダニとの共生などの興味深い戦略の紹介があった。



パックテストによる水質試験の実施体験



街の中の自然、新発見！の実践風景

## 2. 生物多様性～生物をまねた新商品を探せ～をテーマに鎌倉小学校で出前授業を実施した

神奈川県環境・エネルギー学校派遣事業として、横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校で3年生33名に9月13日に出前授業を実施した。校庭に出て、池、草原、畑、樹木の所の虫、生き物探しを行い、捕まえて虫かごに入れた。みんな必死になって探し、捕まえていた。見つけた生き物：アメンボ、メダカ、ヤゴ、バッタ類、クモ、蝶類、みみず、セミなど。どこの場所にもいる生き物とその場所にしかいない特定の生き物がいることが分かり、且つ種類と数が予想していたよりたくさんいることも分かった。

次に5つの机に分けて、それぞれの生き物と商品の実物を置いて、生き物のどこの形や機能をまねて商品ができているか実験や体験で気付かせた。

- (1) ルーペ観察：おなもみ→かぎ型の針→マジックテープ（簡単に接着）
- (2) 顕微鏡による表面観察：ハスの葉っぱ→水をはじく→ヨーグルトの蓋（ヨーグルトが付着しない）
- (3) LEDライトを当てて色観察：モルフォ蝶→光り輝くブルーの構造色→色鮮やかなネクタイ
- (4) 実物剥製を見て、触って体感：カワセミ→くちばしの形→新幹線先頭車両（スピード、静か）
- (5) 叩いて実感：ハチの巣→六角形→段ボール板（強い）

児童からは、①校庭にこんなにたくさんの虫や生き物がいるとはびっくりした。②虫や生き物をまねて素晴らしい商品ができていて、人間と虫や生き物が共存しなければ、人間は生きられないことが分かりましたなどなど、講師陣もびっくりする感想が述べられた。

なお、講師は池田、大竹、平野、大野、岡本の各委員が担当して、児童と一緒に楽しんだ。



あの葉っぱの所にヤゴがいるよ！どこどこ？  
池の中にもメダカやアメンボがいました



ヨーグルトがくっつかない蓋ってどうなっているんだろう？顕微鏡で表面を見ています。  
水をはじくハスの葉っぱやサトイモの葉っぱの表面と同じでした。

## 『環境経営委員会』

## eco 検定試験対策セミナーの報告

横浜支部 平野 雅明

eco 検定の合格者は『エコピープル』と呼ばれ全国で約 22 万人（2016 年現在）がなっている。エコピープルを増やすことは持続可能な社会の実現を目指し「環境に関する幅広い知識を礎とし環境問題に積極的に取り組む“人づくり”」である。KECA 主催の eco 検定試験対策セミナーは、年 2 回開催しており 2016 年 10 月 9 日開催で 13 回目になる。2010 年 11 月に KECA 会員向けに第 1 回のセミナーを開催してから、受講者は 1 名から 30 名まで幅があったが、会員の方々の協力により本年まで継続して開催できたことに感謝している。

先日、セミナーを受講し見事 eco 検定試験に合格した方にお会いする機会があり、お礼を言われた。セミナーで配布している学習予定表（試験当日までの学習スケジュール）を参考に、社会人として家以外の場所で、すきま時間に勉強した結果とのうれしい話をお聞きした。

本セミナーで使用しているテキストは講師陣が最近の試験傾向を取り込み KECA 独自で作成している。公式テキストが改訂された箇所他、最新の出題問題の KECA テキストへの変更作業は、可否に関わるため重要な作業となっている。最近では IPCC 第 5 次評価報告書やパリ協定を取り込み、低炭素社会実現のため温暖化ガス実質ゼロの内容につきポイントを追記、説明した。

eco 検定の試験は、地球の基礎知識から低炭素社会、自然共生社会、地域（公害）から地球環境問題、循環型社会、震災関連まで広範囲で、公式テキストにない最近の出来事も出題されるため、講師陣は最新の情報に目を配りスキルUPさせていただいている。また、受講者へのレクチャーをとおし、プレゼンテーションやコミュニケーション能力のUPにもつながっている。『分かり易く』、『丁寧に』、『きめ細かく』講義することで、環境問題が受講者の体にすっと入り、環境に興味を持ち、気づき、面白さを体感してもらうことが何より大切で、セミナーに来てよかったなと思っていただけるよう心掛けている。

引き続き 2017 年の開催を 5 月と 10 月に予定している。KECA ホームページに詳細は掲示しますのでお知り合いにご紹介をお願いします。



2016年5月29日 近藤講師



2016年10月9日 杉浦講師

【支部活動報告】

☆☆西湘支部☆☆

東海大学（人間環境学科 自然環境課程）の環境カウンセラー講座

西湘支部長 早野木の美

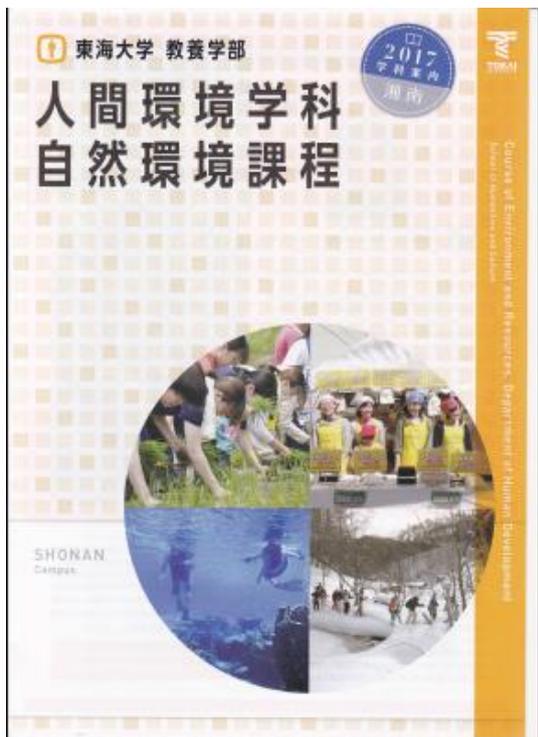
11月5日（土）東海大学平塚キャンパスで西湘支部の会員が大学生に講義を行いました。この講義は東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程の学生を対象に行っている環境カウンセラー講座の1コマを会員にお願いしているものです。（この講座は今年で7年目となります）

小林嘉博氏からは「エコアクション21環境経営システム ～組織と社会との会話のツールとして～」、加藤忠男氏からは「企業活動と環境への取組 ～地球温暖化を考える」、曾我一人氏からは「ケナフを通じた近隣小学校との環境コミュニケーション」を話していただきました。学生からは沢山の質問が寄せられ、環境カウンセラーに対する関心の高さを感じられました。

東海大学では大学の広報資料に「取得支援科目：環境カウンセラー（市民部門）・技術士補（環境部門）・生物分類技能検定」と紹介しています。今年は河野理事長にも参加いただき、環境教育インストラクターの説明が行われ、学生は「来年は受講したい」と頼もしい回答がありました。

講義終了後は学科長の室田健一教授と会員全員で対談を行い、かながわ環境カウンセラー協議会の組織や環境教育インストラクターへの取組などを紹介しました。環境カウンセラーの試験は4年間の在籍だけでは取得できませんが、環境カウンセラーが実施するイベントに学生が参加することで、参加者としての証明書が発行できることを伝えました。教授からは環境カウンセラーを輩出したいので、今後も継続的なご支援をいただきたいとお願いされました。

これからは東海大学から環境カウンセラーを輩出するため、室田教授との連携と共に学生たちへの働きかけを強めていきたいと思えます。



## ☆☆横須賀三浦支部☆☆

## 小中学生の環境教育・体験学習

横須賀三浦支部 高橋 弘二

## 1. すかつ子セミナー

公立学校5日制から始まった小中学生の土曜体験プログラム“すかつ子セミナー”は11月19日(土)の合同発表会をもって16年目の活動を終了します。生活環境、自然環境系、地域文化、創作科学の分野に7つのコースがあり、小中学生約50名(複数コース受講者あり)が、5月のオリエンテーションから10月まで、コースごと毎月1回土曜日に開催してきました。

■5コース自然系A“川がき探検隊”は、三浦半島を流れる川を河口から遡り、途中で生き物調査(サワガニ、ヨシノボリ、カゲロウなど)をした後は、水遊び、源流探検を楽しみました。  
 ■8コース自然系D“海っ子・山っ子”の今年のテーマは「横須賀の砂浜を訪ねて遊ぶ」です。東京湾側と相模湾側に残る砂浜や岩礁を訪ねて、砂浜で遊び、海で泳ぎ、潮だまりで魚、カニ、貝などを捕って遊びました。

◇11月19日：合同発表会、12月10日：参加者交流会

〔KECA〕指導者：中村、小嶋、遠田、高橋



川がき探検隊(前田川)



海っ子・山っ子(城ヶ島・馬の背洞門)

## 2. 子ども環境体験教室

横須賀市地球温暖化対策地域協議会の環境教育プロジェクトに所属し、小学生を対象にした「子ども環境体験教室～ソーラーランタンをつくろう～」を、年3回(夏休み、秋休み、春休み)実施しています。今年は8月19日(夏)、10月11日(秋)、それぞれ20数名の小学生が参加して実施しました。

まず地球温暖化の現状、原因、対策などについて、DVDで学習した後、7問の「OXクイズ」を行いました。続いて「私たちができる温暖化対策」について復習し、今日から取り組むことをひとつ「チャレンジシート」に記入して、グループの代表に発表してもらいました。

休憩の後は体験コーナー、「蛍光灯と白熱電球の比較」「LEDと豆電球(白熱灯)の比較」「ウチワで風力発電」「強力ライトでソーラー発電」の4つを順に体験してもらいました。この後、ペットボトルを本体にしたランタンに小さなソーラー・豆LEDを取付け、ペットボトルをマーカーで色どりして完成させます。全員が出来上がったところで、部屋の電気を消して“点灯式”。20数個のランタンが幻想的な灯をともし、部屋中で歓声が上がりました。〔KECA〕指導者：中村、小嶋、高橋



LEDと豆電球(白熱灯)の比較実験



ソーラーランタンづくり

## ☆☆県央支部☆☆

## 「昭和電工株式会社 川崎事業所／麒麟ビール横浜工場」見学報告

県央支部 鈴木 竹二

KECA 県央支部の2016年度計画として表記見学会を10月6日午前10時30分より午後3時20分にわたり2社の見学を実施しましたので、以下に報告します。参加者は10名。

## 1. 昭和電工株式会社 川崎事業所 プラスチック ケミカルリサイクルの見学

(1) 日時：2016年10月6日（木）午前10時30分～12時00分

(2) 内容：家庭や事業所から排出されるプラスチック製品がリサイクルされる仕組みを実際に見学した。最初は事務所で昭和電工川崎事業所の沿革やリサイクル工程の流れについてプロジェクトやサンプル品などで説明を受け、その後、破碎成形設備・ガス化設備を中心に見学バスにて案内されました。川崎事業所は、化学コンビナートであり、1930年の工場設立依頼、長い伝統と実績を有しており、本事業所は、登録有形文化財として文化庁に登録された、大変趣きのある建物が移動中のバスの中から見学出来た。

(3) プラスチックのリサイクル手法

主に3つに分類されています。

## ① マテリアルリサイクル

使用済みプラスチックをそのままプラスチックと製品に再生する手法です。

## ② サーマルリサイクル

使用済みプラスチックを燃料として燃焼させ、その発生するエネルギー等を利用して発電などを行う手法です。

## ③ ケミカルリサイクル

化学の力で4つの手法があります。

i 油化：石油から作られたプラスチックをもう一度

ii 高炉原料化：製鉄所で鉄を作る過程で使われます。

iii コークス炉化学原料化：製鉄所で鉄を作る過程で使われます。

iv ガス化【昭和電工で実施している工法】：

分子のレベルまで分解し、他の物質（アンモニアなど）として利用する手法です。



## 2. 麒麟ビール横浜工場の見学

(1) 日時：2016年10月6日（木）午後2時00分～3時20分

(2) 内容：横浜生麦での操業開始から90周年を迎えた麒麟ビール横浜工場が10月1日新装オープンし四半世紀振りの見学施設の大規模刷新され、最新設備の導入で体験型の見学施設が充実し、ビール作りの魅力を体験できた。最初に麒麟と横浜工場の歩みを映像で説明があり、その後見学コースで麦芽の試食やホップの香りに触れ、仕込み釜の発酵タンクの内部のミクロの世界を体験し酵母の働きが学べました。そして最後にお楽しみの“一番搾り”“黒ビール”“熊本づくり”（この商品の売上げ1本につき10円を、熊本地震の被災地の復興支援策に活用）など3種類のビールの試飲を楽しんで見学会の終わりとなった。皆様の協力で楽しい一日でした。



## ☆☆横浜支部☆☆

## 自立型水素燃料電池システム（横浜港流通センター）見学報告

横浜支部 太田 芳雄

鶴見駅からバスで大黒橋にある横浜港流通センター（Y-CC）に設置された燃料電池システム見学会を9月30日（金）、横浜支部（自己啓発G）で行った。参加予定者は当初10人強であったが、当日都合がつかなくなったメンバーもいて、参加者は7人と少人数であった。

横浜市・港湾局政策調整課の中村、岸両氏のご好意により、下記のような説明を伺うことができた。自立型水素燃料電池はエネルギー利用の効率化、低炭素化、災害時における事業継続性の確保（BCP）、港のスマート化に寄与することを目的としている。現在は電力ピークカットや非常用電源の活用等の実証実験を行っている。

本燃料電池は固体酸化物型電解セル方式で水素の製造、蓄電量、発電量などを最適に制御する水素エネルギーマネジメントシステム（水素 EMS）により運用される。稼働は2016年3月からで約半年を迎えたばかりである。

今年度中に太陽光発電を屋上に設置し、水素を製造・貯蔵し、自立型のシステムが完成するとされていた。パネルを開けて頂き内部の構造や水素貯蔵タンクなどを詳しく見学することができた。



燃料電池の前で

水素燃料電池の見学後に Y-CC（横浜国際流通センター）の会議室を借用し、Y-CC の役割や横浜の港湾施設、その他貿易収支等の概略を太田から説明し、勉強会を行った。大黒ふ頭は東日本で最初の総合保税地域（FAZ：Foreign Access Zone）に認定され平成8年（1996年）8月にオープンし、「横浜港流通センター（Y-CC）」（延床面積約32万平方メートル）は、国内最大級の物流施設である。



大型ガントリークレーン

埠頭内に立地する約60棟の民間倉庫を合わせた埠頭内の保管面積は、100万平方メートル（東京ドーム22個以上）を上回っており、首都圏における一大流通拠点として、横浜港の物流機能の強化と国内経済の活性化に大きな役割を果たしている。

日頃の馴染みは少ないが、国内外貿易を担う基盤施設のその規模大きさや大型トラック、大型ガントリークレーン（荷役施設）等を見ると拠点の重要性を強く感じる事ができた。見学の機会にご協力を頂いた横浜市港湾局・政策調整課各位に謝意を表します。

☆☆湘南支部☆☆ ちがさき環境フェア 2016 報告

湘南支部 西村 堅一郎

9月24日土曜日に開催された「ちがさき環境フェア 2016」について報告します。今回は昨年と違った点があります。ひとつは会場が分庁舎から新しく竣工した本庁舎に変わったことです。もう1点は去年まで茅ヶ崎市と一緒に主催していた環境市民会議「ちがさきエコワーク」がチラシ上から消えてしまったことです。同団体は平成12年に茅ヶ崎市環境基本計画の推進、環境市民講座開催、環境フェア実行委員などを務めてきました。残念ながら、本年3月31日に解散しました。行政と市民、環境団体との協働が無くなるのはさみしいものです。

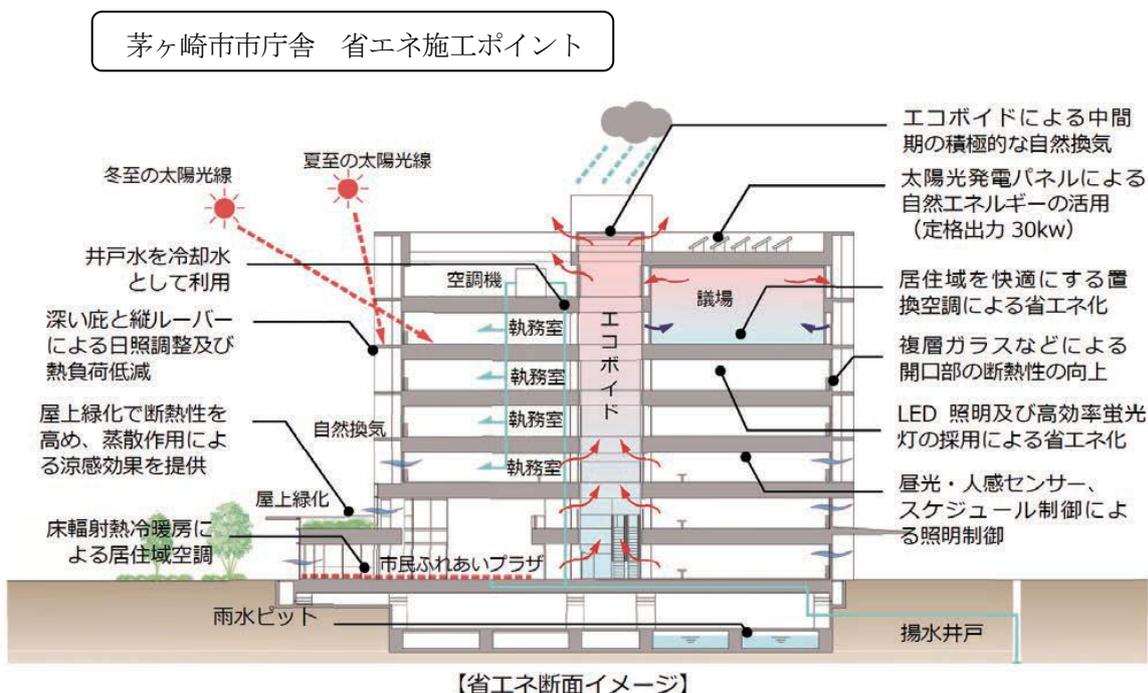
KECAの展示は「ごみ・資源、地球温暖化(省エネ、節電)生物多様性と自然環境保全ゲーム」どっちがほんど? さあ考(かんが)えてみよう! というクイズで2択問題(○、×)です。問題がどうのこうのという前に、お客が集まらないのが困りました。パネルの前が通路になっており、かつ狭いので、人が立ち止れないのです。

ワークショップは浮沈子です。80本のペットボトルが13時過ぎにはなくなり、変わり絵などで遊びました。



ワークショップ浮沈子の模様：  
パネルを手に持って、クイズをしましたがなかなかやりにくいものでした。

新しくなった茅ヶ崎市役所は、数多くの省エネ技術を取り入れて施工しています。特徴は太陽光(太陽光発電)、地下水(冷暖房使用)・雨水(緑化の水やり)、エコボイド自然通風(換気、春秋の冷暖房)、屋上緑化(断熱効果)、庇とルーバー(夏の日差し防止)など自然の力を多く取り入れています。一度見学にでも訪れてください。



## 【会員投稿】

## 東日本大震災から始まった福島との5回目の交流会

横浜支部 河野 健三

## 1. まえがき

「一度自分の目で現地を見て欲しい」、この呼び掛けで福島の間との交流が始まりました。東日本大震災は2011年3月11日に発生しました。福島環境カウンセラー協会前会長の長澤さんは2011年6月24日に東京で開催された環境カウンセラー全国連合会（ECU）の総会・懇親会でこの呼び掛けをされました。この呼び掛けに応じて当協議会では、木村前理事長を発起人として大震災5ヶ月後の2011年8月10日、11日に福島を訪問しました。それ以来、3回のイベントへの参加・応援をしましたが、今年の9月27日、28日に5回目の福島訪問を実施し、高湯温泉での意見交換・懇親会と南相馬市の被災地視察を行いました。ここではこの福島との5回目の交流会を通じて福島の現場で頑張っている仲間とKECAとしてどのように係わり、どのようなお手伝い出来るのか考えていきたいと思えます。

## 2. 大震災5年後の交流会と被災地視察（2016年9月27日、28日）

## (1) 高湯温泉での交流・懇親会

福島駅からバスで40分、高湯温泉玉子の湯での交流会は福島の仲間6名とKECA6名で行いました。福島環境カウンセラー協会からは片平会長、長澤さん、樽井さん、佐久間さんと、南相馬の被災地で罹災調査の任に当たられている岩橋さん、原さんの6名の方が参加されました。

[皆さんの話を聞いて]

- ・福島市内にお住まいで、市内の除染はまだまだこれからといわれる片平会長
- ・里山林・自然塾を経営され、子どもたちに自然の大切さを伝えている樽井さん
- ・アマチュア無線で地域の防災に尽力されている佐久間さんのお話

皆さんのお話からは、地震・津波・原発事故の三重苦に見舞われた福島の復興・再生は、まだこれからであるとの印象を受けました。

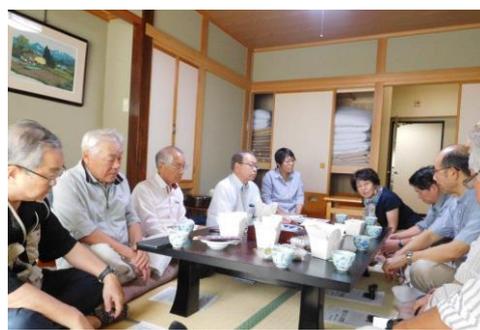
大震災直後の南相馬市で高濃度の放射能汚染の中、罹災調査の任に当たられた岩橋さん、一級建築士である原さんの活動は、我々が窺い知ることが出来ないご苦勞の連続であったと拝察します。

岩橋さんのお話の中で強く印象に残ったのは「堤防の再建、住宅建設等のハード面の対策は時間が経てば解決されていくだろうが、放射能汚染への懸念から家族の分断が起きており、心の部分つまりソフトの面はこれから」との話であった。

このお話はKECAとして福島の現場で頑張っている仲間のお手伝いをするのに、どのような取組みが出来るのかのヒントになると考えている。



高湯温泉玉子の湯の前で（28日朝出発前）



宿での意見交換会

## (2) 南相馬市の現地視察へ

### ① 福島駅発 9 時のバスで南相馬へ

途中にある川俣町は被災地の影響は見られず平常の生活が営まれているようだったが、隣の飯館村は未だ避難解除されておらず、一般の人の往来は見られない。目に入るのは除染作業、工事関係者のみ、ダンプカー等商用車の通行が多い。除染作業、工事関係者のために、唯一コンビニだけが営業していた。白石小学校は5年前と変わらず閉鎖されたままである。(右写真)



閉校中の白石小学校 (車窓)

### ② 南相馬市の現地視察では、原さんの自家用車と大竹さん運転のレンタカーで、7月に避難解除された小高地区を中心に案内していただいた。当方の印象を述べます。

- 瓦礫の撤去は進んでおり、5年前は田んぼの中に打ち上げられた船の残骸があったが、これはさすがになくなりその代わりに黒々としたフレコン袋の山が散在している。



5年前の船の残骸



汚染土が詰められたフレコン袋の集積場

- 工事用のトラック、特にダンプカーの多さにびっくりした。日本中のダンプがこの地域に集中しているのではないかと思うほど多い。
- 南相馬市には浪江町・双葉町住人のための3階建災害公住宅が建設されていた。一方、道路沿いの除染作業が多く場所で行われている。放射能汚染への対応は途半ばのように思える。
- 小高地区の生きものたち(植物を含む)はどうなるのでしょうか。道路側溝に青い花をつけた水草が長さ10mほどにわたり密生していた。「ミズアオイ」といって、環境省RDBの絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、この辺でもここしかないので、除染作業で刈り取られないように移設を検討中とのことでした。



絶滅危惧Ⅱ類の「ミズアオイ」

## 3. 福島の間を忘れない

福島で頑張っている仲間 KECA として微力ながらどのように協力することができるか、今後の取り組みに向けて検討していきます。

一つ考えられることは、復興途上の福島の現状と福島で頑張っている仲間たちの活動について私たちが知り、まわりの人たち、そして多くの人たちに伝えること。キーワードは広報活動にあるのではないかと考えています。今回の参加者は6名(岩村順雄、大竹順之、木村信幸、嶋田和夫、高橋弘二、河野健三)でしたが、もっとたくさんの KECA 会員に参加していただき、福島の間との絆・連帯を強くし、これからも福島訪問を続けていきたいと考えています。

尚、2011年8月10日、11日に行った福島訪問は別冊の「有志による福島研修旅行報告」、2016年9月27日、28日に行った福島訪問は別冊の「5年後の福島訪問記」をご覧ください。

## 第11回 エコアクション21 全国交流研修大会 in Osaka に参加して

横浜支部 千葉 雅子

“お悩み解決大会”と称し、真に事業者の視線に立つて助言を行う審査人の役に立つ大会をめざし第11回エコアクション21 全国交流研修大会が、開催された。参加者は約480名に達し盛大で盛り多いものであった。

1. 開催日時 (1日目) 平成28年10月21日(金) 13:00~18:00  
交流会 18:00~20:00  
(2日目) 平成28年10月22日(土) 10:22~13:00
2. 開催場所 大阪市中央公会堂(国の重要文化財) 大阪市北区中之島1-1-27
3. 主催 エコアクション21 地域事務局大阪  
一般財団法人持続性推進機構(エコアクション21 中央事務局)
4. 基調講演 『取材から見える元気な経営者』 竹原 信夫(「日本一明るい経済新聞」編集長)
5. 事例発表 ・中農製作所株式会社(製造業) ・株式会社ソルテック工業(建設業)
6. “なにわのお悩み解決セッション”(分科会)
7. 環境落語 ~審査人 満腹亭肥満(飯田哲也)~ 演目:『環境配慮屋台』
8. 交流会 ~いてまえ交流会大阪~アトラクション よさこい夢舞隊、環境すくい  
~ 2日目 ~
9. 分科会報告(当日指名して審査人から報告)
10. 講演 EA21 ガイドライン改訂の概要及び普及策について  
環境省環境経済課 課長補佐 齋藤 英亜氏
11. 地域事務局大阪の普及活動紹介
12. パネルディスカッション 『エコアクション21 認証取得3万件に向けて』
13. 全国研修会の総括 中央事務局事務局長 森下 研

### (感想)

今回、この大会に参加してエコアクション21 大阪の方達の物凄いパワーと熱意を感じた。分科会は、“なにわのお悩み解決セッション”と題し、省エネ、廃棄物削減・管理、節水・排水処理、化学物質管理、グリーン購入・調達、製品・サービスにおける環境配慮、コミュニケーション、経営品質アプローチによる改善活動、リスク管理、防災・BCP、内部監査、環境関連法規等取りまとめ、補助金活用事例、地域事務局運営の14部門に別れ、セッション(プレゼン&フリーディスカッション&個別相談)が行われた。私は、補助金活用事例と、省エネの分科会に参加し、とても参考になった。補助金活用事例分科会では、EA21 審査人だけでなく、企業、コンサルタント、事務局からも参加しているようで、熱心に聴講していた。また、この大会参加者には、「ハンドブック~審査・構築支援でアドバイスに役立つ資料集」が配られたが、400ページにも及ぶ力作で、これを入手するだけでもこの大会に参加した意義があった。

「パネルディスカッション」では、新「EA21の8つのご利益とゴール」及び3万件のゴールを目指す具体的方針について話し合われた。ゴールとは、「トップの高い理念と、社員の高いモチベーションで、社員全員が胸を張れる企業になる」である。今後は、このハンドブックを活用させて頂き、有効で適切な審査、そして受審企業が目指すゴールにたどり着けるように手助けできる審査人になるよう努めたいと思った。

**【新人会員投稿】**

■氏名：岸 高志 （きしたかし）

■所属：横浜支部、環境管理委員会、化学物質委員会

2年目の新人メンバーです。2015年1月にエコアクション21の審査人に登録されすぐ、エコアクション21地域事務局を訪問し、その足でKECAに入会しました。今は会社の仕事が忙しく、そちらを優先しています。それぞれの会合には参加したいと考えていますが、なかなかできないのが実情です。

KECAが組織的、計画的に環境に関するさまざまな活動を展開しているなかで、私自身は、具体的な活動はしておりませんのでこのような文書を投稿すること自体恐縮しておりますが、2年間を振り返りますと、私にとって、KECAの大先輩より、たくさんのことを教えて頂いて導かれていると気づきました。

- (1) 入会するため、ワールドポーターズを訪問した際、K事務局長に環境管理委員会、横浜支部会への道筋をつけて頂きました。
- (2) 支部会で、会場の予約担当を仰せつかりましたが、予約結果をメンバーに連絡する際のメールアドレスの取り扱い、文書の不備についてご指摘頂き、間違いを改めることが出来ました。
- (3) エコアクション21の審査人になるために、オブザーバーとしての経験が必須ですが、新人の審査人がオブザーバーに参加出来る仕組みを作って頂いたO委員長。
- (4) 化学物質委員会では、リスクアセスメントのセミナー講師を経験させていただきました。先輩の参加者を引き付けるプレゼンは大変参考になりました。
- (5) 第20回KECA通常総会ではあらためて、KECAの組織的な活動を理解しました。またそのあと開催された懇親会では、化学物質委員会のKさんから貴重なアドバイスを頂きました。「仕事が忙しくて、審査人の活動が出来ない」と相談すると、「いろいろなことを一度にするほど、あなたには、能力はないのだから、ひとつだけしていればよいのではないか。悩むことはない。」といとも簡単にコメントされました。それまで、やりたいことが出来ないとうとううしく感じていましたが、このアドバイスにより気持ちが楽になりました。今は、出来ることだけをしようと考えています。

以上、その時々いろいろなことを教えて頂ける、素晴らしい多くの先輩がKECAにはいます。感謝申し上げます。2年前まで、全く知らなかった皆さんです。でなにか「ご縁」のようなものを感じます。折角の「ご縁」ですので大切にしたいと考えています。今後ともお世話になります。宜しくお願いたします。

**【編集後記】** 此の度、初めて編集を担当することになりました。理事長から、東日本大震災から始まった福島との5回目の交流会に参加して、“復興途上の福島の現状と活動について知り、そして多くの人達に伝えることが大切である”との報告がありました。その他、環境インストラクターフォローアップ研修会、小学校での出前授業、eco検定試験対策セミナー、小中学生の環境体験学習やプラスチックケミカルリサイクル見学及び自立型水素燃料電池システム見学等、興味深く充実した内容で報告されています。KECAニュースが、KECAの会員だけでなく、広く一般の方々にも読んで頂けるよう願っています。(千葉)

**【発行】 特定非営利活動法人**

かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

理事長：河野健三/編集人：千葉雅子

◇住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1  
横浜ワールドポーターズ6階 NPOスクエア内

◇電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

◇E-メール：

[37keca@kke.biglobe.ne.jp](mailto:37keca@kke.biglobe.ne.jp)

◇URL：

<http://www1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>

◇年会費等振込先

ゆうちょ銀行

口座番号 00260-9-24711